

牛海綿状脳症(BSE)対策の「今」を解説します！

平成13年に国内で最初の感染牛が確認され、これを機に牛のBSE対策が開始されました。その後、この病気を取り巻く状況は大きく変わってきています。今回はBSE対策の現状について説明します。

BSEとはどんな病気？

BSEは牛の病気のひとつで、BSEプリオンというタンパク質が飼料とともに体内に入り、増殖して脳に蓄積することで発症します。発症した牛は脳がスポンジ（海綿）のようになり、異常行動、運動失調などの症状を起こして死亡します。

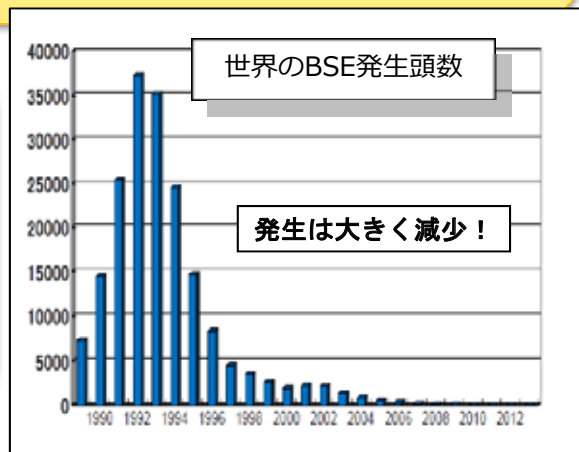
1980年代後半、イギリスを中心としたヨーロッパ各国で、感染牛を肉骨粉として牛の飼料にしたために、爆発的に感染が拡大しました。発生のピークだった1992年には、イギリスだけで3万7千頭もの感染牛が確認されています。日本では2001年9月以降、36頭が確認されています。

また、BSEは、人の病気である「変異型クロイツフェルトヤコブ病（vCJD）」の原因になることがわかり、世界的に大きな問題となりました。

今まで取られてきたBSE対策

- ・ BSE発生国からの牛や肉骨粉の輸入停止等 **(輸入規制)**
- ・ 牛の飼料に肉骨粉を使わないこと **(飼料規制)**
- ・ プリオンの蓄積しやすい場所（脊髄や腸の一部など）を食肉から取り除くこと **(SRMの除去)**
- ・ 牛のBSE検査 **(全頭検査)**

※SRMとはプリオンがたまりやすい特定危険部位のことです。

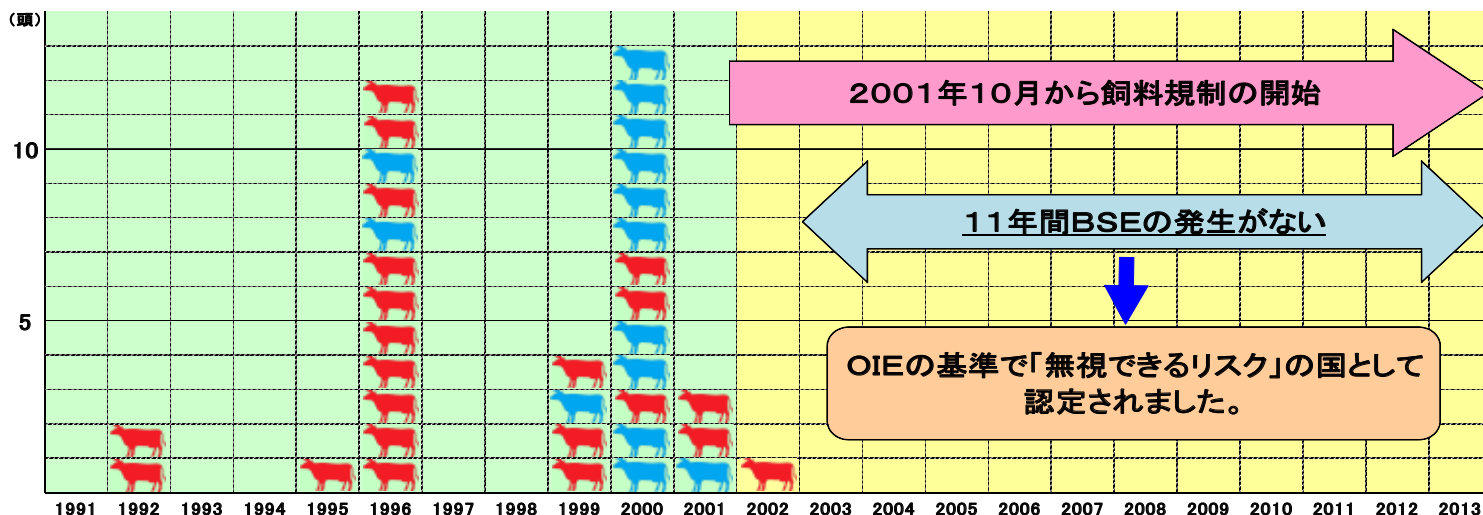


BSEは日本からなくなった？

様々な対策をとった結果、2002年2月以降に生まれた牛には発生がないことから、2013年5月、国際獣疫事務局（OIE）によって、日本はBSEの清浄国（無視できるリスクの国）に認定されました。

国内で確認されたBSE検査陽性牛の出生時期

赤はと畜場で検査された牛。青は死亡牛



国はどのように安全性の評価をしたのですか？

食品安全委員会は、平成25年5月に「BSE対策の見直しに係る食品健康影響評価」をまとめました。

<概要>

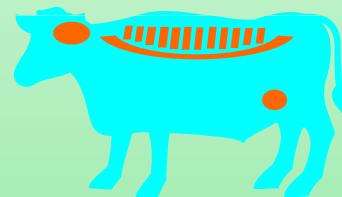
- 「BSE発生国からの輸入規制」「牛の飼料に肉骨粉を使わない」「プリオンの蓄積しやすい場所（SRM）を食肉から取り除く」などの措置が適切にとられていることから、日本においては、牛肉及び牛内臓の摂取に由来するvCJD発症の可能性は極めて低い。
- 2002年2月以降に生まれた牛ではBSEの発生がなく、今後、日本でBSEが発生する可能性はほとんどない。

これらのことから、検査月齢を現在より引き上げても、人の健康リスクに影響はないと評価されました。

一方で、検査を全面的に中止するのではなく、当面の間、検証のために検査を継続する必要があるとの考えが示されました。

<SRM>

扁桃・回腸遠位部・
頭部・脊髄・脊柱



なぜ48か月齢を超える牛を検査対象としたのですか？

- 各国のBSEの発生状況から、BSE検査陽性牛のほとんどは48か月齢を超えて検出されていること。
- 経口投与実験（BSE感染牛の脳組織を投与）では、48か月齢相当以上の牛から異常プリオンタンパク質が検出されており、BSEプリオンの摂取量が少ないほど潜伏期間が長くなるという知見が得られていること。

これらを総合的に評価し、48か月齢を超える牛を検査対象としています。

牛の月齢は分かるのですか？

日本では、「牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法」に基づいて、すべての牛に10桁の個体識別番号耳標が付けられ、生年月日、生産地、生産者等の情報が一括管理されています。

そのため、すべての牛の月齢を確実に判別できます。



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

詳しい情報は、千葉県衛生指導課のホームページをご覧ください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/eishi/index.html>

千葉県衛生指導課 BSE 検索

今回の食の安全・安心レポートに関するお問い合わせは…

千葉県健康福祉部衛生指導課

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 TEL:043-223-2642 FAX:043-227-2713 E-メール : eisi3@mz.pref.chiba.lg.jp

